

仲良し学級で14年間も奮闘

北区広陵小の石場さん

仲良し学級で14年間もお手伝いを続けている石場明さん（いしば・あきら、生環8期）の“ボランティア現場”取材しようと9月25日、北区の広陵小学校を訪ねた。

この仲良し学級は男女半々で8人（うち車いす1人）。先生は3人。この日は5人が普通学級との交流授業で不在だったので、石場さんは2時間目と3時間目に1人ずつ子供たちの相手をした。

「この絵はどのカードと同じかな？」

「うーん、これやろ」。石場さんのやさしい問いかけに、2年生のA子ちゃんが答える。2時間目は絵合わせと絵本読みの授業で、すいすいとはいかなかったが、なんとか終了。

3時間目は5年生のM君とパソコンを使った割り算の計算問題。1問目は $734 \div 5$ で、担任の先生は「口で説明するより、画面を見ながらの方が理解が早いんですよ」。なるほど、石場さんもよく知らないというキータッチをM君はなんなくこなしていく。「よくできたなあ」と石場さんは解答にマルをつけるだけだ。もう1人、体の不自由な5年生のK子ちゃんには担任の先生がつきっきりで算数を教えていて出番はなく、石場さんのお手伝いは昼前に終了した。

広陵小の仲良し学級は予備室もあってスペースも広い。教室にはガス調理器、冷蔵庫、洗濯機も備わっており、年2回は親子クッキングを楽しむという。

石場さんは現在87歳。毎日1時間の散歩と囲碁が健康法だ。食事「肉の方が好きです」と。多くの人に支えられた人生、元気なうちに少しでも社会に恩返しをしたいという思いから退職後シルバーカレッジに入学。自宅近くの広陵小でH16年から特別支援学級のお手伝い（支援員）を始めた。

「子供たちの相手は面白いですか」「そう、毎日楽しいですよ。ただ、6年生の算数はちょっとむずかしいなあ」。聞けばここ数年、学校が学力向上にすこく



㊤ 2年生の女児と絵合わせの授業をする石場さん

㊦ 5年生の男児とはパソコンを使った計算問題に取り組む

力を入れており、パソコン操作などしんどいこともあるという。それでも、14年もやってきた仕事なので、「体調が許す限り仲良し学級に関わりたいですね」ときっぱり。

卒業する子供たちから「石場さんボク頑張るからな」と「お別れの挨拶をされる時が一番うれしくて、さびしい」と目がうるむ。

広陵小には3人のボランティアさんがいるが、石場さんは「穏やかで根気よく、子供たちにもやさしい」と担任の先生からの信頼も厚い。

（取材 南形徹・惣山町在住）

ボランティアの現場 ②

